



かかやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

太陽が照っていても、吹く風の冷たさに思わず背を丸くしてしまふことがあります。そんな寒い日でも、子どもたちは、元気に運動場で体育科の学習をしたり、みんなと楽しく遊んだりしています。

一方、風邪等をひき、学校を欠席する子が少しずつ増えつつあります。ご家庭におかれましても、合言葉「早寝、早起き、朝ごはん」運動や「手洗い・うがい」の励行など、子どもたちの健康管理には、ご配慮いただきますようよろしくお願い致します。いよいよ2学期最後の月、12月です。学習面や生活面で取り組んだ成果や課題、あるいは学校行事や学年行事で活躍したことなどを、個別懇談会で説明させていただきます。ご多用のこととは存じますが、出席していただきますようよろしくお願い致します。

国際化が進んだ社会でも活躍できる子に！！

立命館大学留学生に学ぶ【4年生】

立命館大学BKCには、海外からのたくさんの留学生がおられます。立命館大学BKCのご理解とご協力のもと、4か国(4人)の留学生を、学校にお招きすることができました。全体場で話す時間は少なくして、グループの中でそれぞれの国についてより深く学べるように計画しました。

【留学生の母国】 インド・バングラディシュ・ チリ・フィリピン	⇒ ⇒	(ア) 学級を半分に分け、話を聞く。時間を区切って、ローテーションする。 (イ) 給食を一緒に食べる。
--	--------	--

◎国際(理解)教育に必要なことは次の3点であると考えています。

①異国文化の理解	「衣食住」を中心にしながら、外国の文化について知る。【今回の交流の重点】
②自国文化の理解	異国文化の理解と同時に、日本ならではの文化やその良さについて再確認する。
③コミュニケーション力	外国語を学ぶ。(外国の人と、会話できるように力をつける)【外国語・・・英語】

4人の留学生のみなさんは、ICT機器を使って、それぞれの国の「地理的なこと」「気候に関すること」「歴史的建造物や遺産」「衣・食・住の文化」「子どものこと」等、画像で紹介していただきました。片言の日本語と英語を使い説明してくださっていましたが、画像が変わるごとに歓声や驚きの声、あるいはうなずく姿を見ることができました。また、民族衣装を着たり、小物やお金等をもってきていただいたりと、子どもたちの目が輝いていたように思います。異国文化を学ぶことで、日本との違いを感じ、さらには自国文化のよさを考える機会となったように思います。ますます国際化が進む中で、子どもたちが国際社会の中でも活躍できる姿を見据えて、国際(理解)教育を進めていきます。



5年生『びわ湖フローティングスクール』

第74航海	11月19日(月)～20日(火)	栗東市立大宝東小学校	老上西小学校【3・4組】
第75航海	11月21日(水)～22日(木)	栗東市立金勝小学校	老上西小学校【1・2組】

滋賀県の特徴ある教育の活動「びわ湖フローティングスクール」を体験しました。びわ湖フローティングスクールの教育方針は、母なるびわ湖を舞台として、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開し、環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかかわる力を育てることであります。学習船「うみのこ」は昭和58年に就航し、今年度から新学習船「うみのこ」として生まれ変わり、約54万人の小学5年生が学習をしてきました。

《びわ湖を感じる》

日常生活の中で、陸からびわ湖を眺めた経験はあるかも知れません。しかし、船からびわ湖や陸を、あるいは島を眺めた経験は少ないことでしょう。港から出航する時間やびわ湖を展望した時間は、見るだけでなくびわ湖を吹く風から、波の音やにおいまでも感じる事ができたのではないのでしょうか。「びわ湖環境学習」の時間には、電子顕微鏡を使ってプランクトンを調べたり、北湖と南湖の水の透視度を調べたり、水のごれ回復実験をしたりと、活動を通して、びわ湖の環境について深く学ぶことができました。5年生は、「はぐくみ」総合的な学習の時間に、ICT機器タブレットを使って学習のまとめをしています。

◎びわ湖展望で、多景島・竹生島・沖の白石・沖島を展望しました。沖の白石は、4つの岩（高さが約20m）があるけど、水の深さは約80mなので、岩の全長は約100mであることにびっくりしました。鳥が休んでフンをしたので岩が白くなっているらしい。竹生島の木は、鳥のフンなどで枯れてきているので、木を植える活動がされているようである。

◎北湖より南湖の水が汚い。プランクトンが増えすぎると魚などの生き物が住めない。一度汚くなったびわ湖の水をきれいにするには、30年以上かかる。人間にとって安全できれいな水の中では、生き物が住めないことを考えると、ほどよいプランクトンが住むびわ湖の水にしなければならない。

《友情を広げる》

はじめて出会う大宝東小学校や金勝小学校5年生と7～8人のグループをつくり、役割分担（班長・副班長・活動係・食事係・生活係）しながら、生活をともにしました。はじめは緊張していましたが、船内見学や長浜タウンウォーク・タベのつどい・びわこ環境学習等の活動で、友情が広がったように思いました。また、食事の時間は、びわ湖からとれる食材や滋賀県産の食材を使ったメニューに舌鼓を打ち、和気あいあいとした雰囲気をつくりだすことができました。



びわ湖展望（琵琶湖大橋）



避難訓練（救命胴衣着用）



学校紹介



タベのつどい（綱引き大会）



「うみのこ」ディナー



「北湖・南湖」水の透視度調査



水のごれ回復実験



プランクトン観察

